

メディア情報工学科だより



2008年6月25日 第3巻第1号（通巻第7号） 沖縄工業高等専門学校メディア情報工学科発行

学科近況

本年は、1年生から5年生の本科生が勢揃いし、沖縄高専の組織・定員の完成の年であります。更に、来年度開設に向けて、専攻科の準備も着々と進めております。

4年生の冬から始まった現5年生の就職・進学活動も、今がヤマ場です。これには、最大限の支援を行うべく推進いたします。今年度の就職・進学状況については、現在までによい結果を残しつつある、とここでは概況だけ申し上げておきます。詳細は、別稿-各学年の話題（5年生）をご覧ください。学科懇談会においても、詳細説明を行います。5年生は、当沖縄高専の1期生であり、後輩達に誇れる結果を残してくれると、期待しています。

インターンシップは4年生の重要な行事です。本年も夏期休業中に実施すべく、準備を進めています。詳細は、別稿-インターンシップについてをご覧ください。企業によっては、就職試験の前哨戦ととらえているケースもあります。よく準備をして取り組めるよう、ご協力をお願い致します。

また、本年は研修旅行を、3年生・4年生同時に実施致します。実施は、来年3月を予定しています。学生にとっていい社会体験となるよう準備を進めています。各ご家庭でもご協力をお願い致します。

（平成20年度学科長：姉崎 隆）



各学年の話題（5年生）

学級状況

5年生は今年で最終学年を迎えました。4年前に1期生として入学して以来、我々教職員と共に沖縄高専の校風を作ってきました。この4年あまりの間に1期生が中心となって県内外に誇れるめざましい活躍をしています。特に本校に見学に来られた方や企業の採用担当者から学生の礼儀や挨拶について感心したとの声が多く寄せられます。



卒研スペースで黙々と研究に勤しむ5年生

中でも1期生の進路については企業だけではなく、沖縄県情報産業振興課や沖縄県情報産業協会からも高い関心が寄せられています。沖縄高専を作ってきた1期生が卒業し、本校の卒業生として社会で活躍してくれることを願っています。

進学・就職状況

5年生の就職・進学は在籍数40名の内、就職希望が25名（62%）、進学希望が13名（33%）、その他留学などが2名（5%）となっています。

就職では、今年の1月頃から5年生の就職活動がスタートし、4～5月がピークで現在まで20名（80%）の学生が様々な企業の採用試験に合格しています。採用試験に合格した主な企業は、県内では沖縄電力、トーセ沖縄、琉球ネットワークサービス、ジーエヌイーなど4社5名、県外では富士通アドバンスソリューションズ、トヨタコミュニケーションシステム、サントリー、出光興産、大阪ガス、国立印刷局など14社15名となっています。

一方、進学は13名（33%）の学生が進学を希望し、内4名が専攻科進学希望、9名が国立大学への3年次編入を希望しています。3年次編入試験は5月の中旬から順次各大学で実施され、現在までに、電気通信大、九州工業大学、和歌山大学に3名の学生が合格しています。

まだ、約3分の1の学生の進路が確定していませんが、保護者の方々と連携して進路指導を進めていきたいと思っておりますので、何卒、ご協力をよろしくお願いいたします。

（メディア5年担任：正木 忠勝）



各学年の話題（4年生）

学級状況

4年生は、大学1年生に相当する学年です。学習の面も大学生のように学修単位をとり、自学自習の割合が多くなっています。専門科目の数が一段と多くなり、内容もより高度になってきています。

6月10～12日に前学期中間試験が実施され、その成績は家庭へ通知されます。前学期中間試験の成績が59点以下であっても、すぐにその科目が不合格となり、原級留置（留年）になるわけではありません。次の試験の成績等で挽回は可能です。しかし、59点以下の成績を一度取ってしまうと、次回以降に相当努力しなければ挽回は困難ですので、定期試験、小テストなどでは常に合格点を取るよう指導していきたいと思っています。

ここで4年生の今後の行事を紹介いたします。今年度は以下の3つの行事が控えています。

- (1) インターンシップ（次節を参照のこと）
- (2) 卒業研究（卒研）配属
- (3) 研修旅行

現在の4年生が来年度5年生に上がり、卒業するためには「卒業研究（必修科目）」を行わなければなりません。卒研配属という行事は、学生がどの教員の研究室に所属し卒業研究するかを決める、重要な行事です。参考のために、昨年度の卒研配属の流れを以下に示します。

（今年度も同様な流れになるかと思われますが、時期は早まる予定です。）

- | | |
|----------|--------------|
| 12月7日（金） | 各教員の研究概要配布 |
| ～ | （研究室訪問、面接など） |
| 1月9日（水） | 第1回卒研希望研究室調査 |
| ～ | |
| 2月8日（金） | 配属決定 |

また、4年生の研修旅行は、来年3月2日から3泊4日の日程で東京へ行く予定です。詳細は次号でご報告いたします。

今後、保護者の皆さまと連携して、進路も含めて学生指導を行っていきたくて考えておりますので、どうか、ご協力の程、何卒よろしくお願いいたします。最後に、個別面談または学科懇談会（7月2日15:00～17:00）で保護者の皆さまとお会いできることを楽しみにしております。

（メディア4年担任：タンスリヤボン スリヨン）

インターンシップについて

沖縄高専では4年生を対象として、「インターンシップ」という科目が3単位の必修科目となっています。インターンシップ制度は広く社会に認知されるようになり、その教育効果の期待から多くの教育機関（中学校から大学まで）において実施されるようになってきました。

沖縄高専のインターンシップでは、夏期休業中の8月18日（月）から9月26日（金）にかけて、協力していただける県内外の企業（約160社）などにおいて2週間程度の就業体験を積むことになります。

インターンシップを通じて、高専の授業で学んだ理論や考え方を、実際の社会において応用、実践することにより社会に貢献できる人材の育成を目指しています。また、自分の将来の進路についてどのような職場があるかを理解し、実際に仕事を行い仕事の概要を理解するとともに、実際に働いている人の指導を受け、仕事を通じて職場の状況を理解していきます。

今年度のインターンシップに向けた取り組みとして、これまでに企業説明会、学生の希望先調査、学生の割り振り、履歴書などの必要な文書作成の指導を行ってきました。現在、最終的な受入企業との調整を行っているところです。

今後の予定としては、ビジネスマナー講習会を実施し、職場において必要なビジネスマナーや身なりなどについての指導を行っていきます。また、事前の企業研究レポートの作成を通じて、受入先企業についてより詳しく調べて、有意義なインターンシップになるようにしていきたいと考えています。

インターンシップ期間中は、原則としてビジネスの場に相応しい身なり（服装・髪型など）が必要となります。服装はスーツ着用が必須となりますので、各ご家庭におかれましてもご理解とご協力をいただけますよう、よろしくお願い致します。

（インターンシップ担当：伊波 靖）



各学年の話題（3年生）

学級状況

第3学年は学科別の学級がはじまる学年です。これから卒業まで、基本的に同じ仲間たちと一緒に学校生活を送ることになります。様々な考えや目標を持つ別の学科の学生と共に歩んできた4学科混合の第2学年までと比べると、第3学年からは学級の雰囲気などが変わったと感じる学生も少なからずいるようです。初めのうち、学生はそのことに戸惑うかもしれません。しかし、様々なイベントを含む学校での生活を通して、学生同士の結束は強まり、しっかりとまとまった学級を作り上げていけると信じています。事実、4月に決まった委員長・副委員長をはじめとする各種委員がそれぞれ率先して学級運営に

協力してくれており、ほかの学生たちも皆非常に仲が良く、委員長をしっかりサポートしてくれているため、早くもよくまとまった学級ができつつあり、まとめ役の学科担任などいないのではないかなと思ったほどです。

第3学年の特徴として、全寮制でなくなるということも挙げられます。今年度の第3学年では、ほとんどの学生が寮に残っていますが、次の学年以降さらに寮に残ることができるかどうかについては、学則・寮則をどれだけ守れるか、ということにかかっています。学校・寮生活も3年目に入り、ちょうど慣れてくる時期だと思われます。「少しくらい大丈夫だろう」という思いが生まれ、ちょっとした出来心で学則や寮則をやぶってしまうと、後々、寮に残りたくても残れないということに繋がってきますので、十分注意が必要です。

今年度は4月から5月にかけて、メディア3年の全学生と個別面談を行いました。将来の夢や進路についてしっかりとしたビジョンを持っている学生も少なくありませんでしたが、まだ目標を決めあぐねて悩んでいる、あるいはやりたいことが多すぎてどれに絞って良いか迷っているという学生が大半でした。このように迷い、悩んでいる学生に対しては、少しでも興味があることに何でも積極的にチャレンジするようにと伝えました。第3学年の1年間では、学生に自分の可能性を見極め、進路についての具体的なビジョンを持ってもらえるよう進路指導していきたいと思っています。

（メディア3年担任：佐藤 尚）



新任教員紹介

小早川倫広 准教授

4月1日にメディア情報工学科 准教授として着任しました小早川です。国立大学法人電気通信大学（電通大）大学院情報システム学研究科からやってきました。新任教員の紹介として、はじめに、前職でお世話になった電通大とはどんな大学かを紹介し、次に教育に対する抱負、最後に研究に対する抱負を書きます。

電通大とは？

では、電通大の簡単な紹介をしましょう。電通大は、東京都調布市に在り、新宿から京王線で約15分（急行で新宿から2駅目）、駅を出て3分という好立地です。電通大は、地名を大学名に含まない国立大学としては珍しい大学です。大学名からも、情報通信分野において技術者の卵を育成し社会に貢献するという強い意志が感じ取られると思います。技術者の中では、高い知名度を維持しています。しかし、一般の人々への知名度は低いというのが現状です。たぶん、高専生の中でも電通大が国立大学であることすら知らない人が多いのではないのでしょうか。技術者教育には伝統と実績を有し、企業からは高い評価を頂いています。3年次編入も受け入れてい

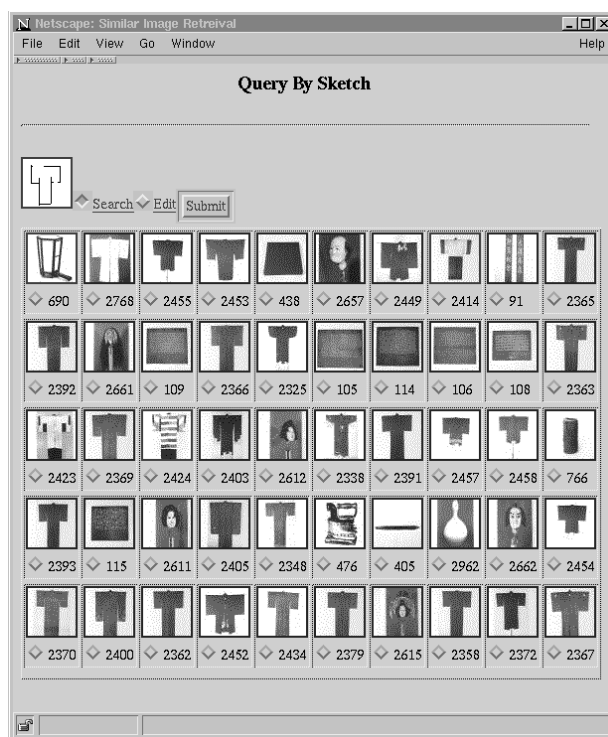
ますし、専攻科卒業後の大学院への進学候補として、悪くない大学であると思います。

教育に対する抱負

私は、マルチメディアデータを対象に"探す"を研究テーマとし、効果的・効率的な検索手法の開発に従事しています。今後、計算機の高速度化、記録媒体の大容量化がさらに進み、マルチメディアデータが爆発的に増加することが予測されます。しかし、マルチメディアデータを効率的かつ効果的に検索する技術の開発は、まだ始まったばかりであり、現状は必ずしも実用に十分とはいえないと考えています。マルチメディアデータの検索のためには、マルチメディアデータ自身の内容の記述が必要不可欠であり、高速検索を実現するためには、データ集合の関係性を利用した索引構造が必要不可欠となります。

卒業研究では、学生の身近なデータである画像、楽曲データを対象としたマルチメディアデータ検索をテーマとし、大規模なマルチメディアデータを管理・運用可能な検索システムを学生と共同で開発していきます。これらの開発を通じて、学生の基礎能力の向上、技術者としての素養を育てたいと考えています。

しかし、最近の学生の多くは、失敗をせず成功をおさめたい、失敗するくらいなら何もしないでおこうという意識が強くなってきているように思えます。学生時代に、数多くの失敗と成功の経験を多く積み重ねることにより、失敗を恐れず物事に立ち向かえる人間（技術者・研究者）として大きく成長するものだ実感しています。教員として、学生のチャレンジ精神を尊重し、学生が成功体験を積み重ねることができるよう努力したいと考えています。



マルチメディアデータの例

研究に対する抱負

私は、できるだけ基礎的で実社会と関連の深い課題を自分の頭と手足を使って研究し、社会との関係を考えることのできる自立した研究者になりたいと考えています。具体的には、マルチメディアデータを対象に“探す”をキーワードとして、効果的かつ効率的なデータの検索手法の開発という研究課題を通じて、人の役に立ちたいと考えています。

社会貢献のためには、当該分野における研究を通じて、国際的かつ信用のある研究者として着実に自立していきたいと考えています。そのためには、国際的に定評のある学会論文誌および国際会議へ論文を投稿し、採録される能力を常に持ち続けられるよう努力していきます。



その他の学科内の話題

資格試験

4月20日に実施された平成20年度春期情報処理技術者試験にメディア情報工学科から44名（全体では57名）の学生が受験し、本学科から11名の学生が合格しました。試験会場が那覇市の沖縄大学と学校から遠いため、2台のバスで試験会場までの送迎を行うなど、学校として資格試験取得に積極的に支援を行いました。

メディア情報工学科の合格者は次のとおりでした。ソフトウェア開発技術者試験：鈴木裕太(5年)、金城尚志(4年)、津波古渉太(3年)、基本情報技術者試験：伊地知優介(5年)、喜納希美(5年)、栗秋太一(4年)、八幡美希(4年)、比嘉恵介(3年)、初級システムアドミニストラータ試験：加藤愛実(3年)、大川雄生(2年)、宮城一真(2年)

（資格試験担当：正木 忠勝）



認定書を手に笑顔がこぼれる学生

演習室の充実化

メディアコンテンツ演習室は学生用コンピュータのOSをWindows Vistaにバージョンアップしました。また、

ディスプレイを増設し、デュアルディスプレイ（学生1人が2台のディスプレイを使う）環境になりました。さらに増設したディスプレイには教員用コンピュータのディスプレイと同じ画面が配信されるシステムを導入しますので、教員が説明する画面をスクリーンだけでなく学生の目の前のディスプレイでも確認できるようになりました。



上の写真は4年次コンピュータグラフィックスⅠの授業で3DCGモデリングの演習を行なっているところを撮影したものです。教員が説明している画面がスクリーンと学生のディスプレイ右に表示され、学生は左のディスプレイを使って作業をしています。学生は説明画面の細かい部分まで確認しやすくなりました。また、右ディスプレイのスイッチを切り替えることで、学生は左右の2つのディスプレイを使って作業をすることもできます。

（コンピュータグラフィックスⅠ担当：太田 佐栄子）



編集後記

「メディア情報工学科だより」は、3学年以上の学生をお持ちのご家庭を対象に、試験の成績通知に合わせて発行している学科通信です。1期生が3学年となった平成18年度に刊行し、これまでに6号を発行しました。学科だよりにご意見ご要望がありましたら、是非お知らせ下さい。また学校に対してお持ちの疑問・要望、また他の保護者の方々にも知って欲しいことなどを投書して下さい。これも大歓迎ですので、是非お気軽にお便りをお寄せ下さい。

【編集担当者連絡先】

〒905-9021 沖縄県名護市辺野古905番地

独立行政法人 国立高等専門学校機構

沖縄工業高等専門学校 メディア情報工学科 佐藤 尚

TEL: 0980-55-4003（代） FAX: 0980-55-4012（代）